

24. 心疾患患者における心筋トロポニンIの測定と心筋

マーカーとしての有用性に関する検討

臨床検査部 ○堀内裕次, 増渕純一, 穴原淑美, 中尾美佐子, 及川信次 臨床検査医学 松田隆子 沼部敦司, 菱沼明, 家入蒼生夫

心血管・肺内科 金子 昇

目的: 心筋トロポニンI (cTnI)の検査部 24 時間迅速対応にあたって, 他の心筋傷害および心機能マーカーと比較し, 心疾患における有用性を検討した。方法: 心血管・肺内科より検査依頼された急性心筋梗塞症(AMI)を含む 200 例を対象に cTnI, トロポニン T (cTnT), ミオグロビン CK-Mbmass, 心房および脳性利尿ペプチド (ANP, BNP)を測定した。結果: cTnI は cTnT に良く相関し AMI ピーク値における変動域は cTnT より約 10 倍大きかった。また cTnI は BNP の高い AMI 以外の心疾患群で陽性率を示した。

結論: cTnI 測定は心疾患の診断に有用性が高い検査であることが示された。

25. 慢性心不全患者における夜間無呼吸の評価とその治療

内科学 (心血管・肺)

有川拓男, 中元隆明, 鈴木英彦, 堀川良文, 原澤 寛, 川崎龍一, 荒木秀彦, 堀江康人, 杉村浩之, 豊田 茂, 秋葉浩文, 金子 昇

目的: 安定心不全 (CHF) 患者の夜間無呼吸の評価と治療を行う。

対象・方法: 安定重症 CHF 11 例 (左室駆出率 $25.6 \pm 8.6\%$, NYHA class:III, CHF 群) と安定軽症 CHF 6 例 (左室駆出率 $49.8 \pm 3.4\%$, NYHA class:I or II, control 群) を対象に, 夜間の酸素飽和度を連続測定し, ポリソムノグラフィで睡眠との関係を分析した。

結果: CHF 群は control 群に比べ夜間低酸素血症が頻回であった。夜間無呼吸は CHF 群 7 例に認められ, 中枢型が多かった。鼻マスク式持続陽圧呼吸 (nCPAP) と酸素吸入により心不全と睡眠の質が改善した。

結論: 安定重症 CHF では夜間に低酸素血症と無呼吸がみられ, nCPAP と酸素の併用療法が臨床病像を改善するものと思われた。